

「山里の自然を生かした水族館の学芸員になりたい」

日 時：2022年8月19日（金）、21日（日）

入門先：魚津水族館

講 師：不破 学芸員

1日目午前





水族館の朝はミーティングから始まりました。飼育している生き物についての体調報告やエサやりの予定について確認をしていました。


僕も自己紹介をした後、入門の内容について説明がありました。午前中は楽しみにしていた生き物の世話です。

生き物の世話

「富山の河川」「田んぼの生物多様性」「深海生物」「ジャングルコーナー」でエサやりや水替えなどを行いました。（2日間共通）

| | | |
|--|---|--|
| 富山の河川 | | |
| ウグイ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、ルリヨシノボリ、シマウキゴリ、アユ、トウヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ、カンキョウカジカなど 餌：タラの切り身、赤虫、オキアミ、アミエビ、ホタルイカのミンチ | | |
| 学んだこと | 2分で食べ終える量を与える。 赤虫やアミエビは嗜好性が良いのでいろいろな魚に与えている。 | |
| 気づいたこと・感想 | ハゼは沈んできた餌を食べ、アユは浮いている餌を8の字を描くように泳ぎながら食べていた。 | |
| 田んぼの生物多様性 | | |
| イシガメ、クサガメスッポン、アカミミガメ、鯉、銀フナ、ニゴイ、タモロコ、ドジョウ、トノサマガエル、アオダイショウ、アカハライモリ など 餌：粒やフレーク状のえさ、鱈の切り身 | | |

| | |
|---|--|
| 学んだこと | カメは飼育員さんがエサを与える時間をわかって待つことができる。 |
| 気づいたこと・感想 | カメは毎朝、飼育員さんが来るのを首を伸ばして待っている。飼育員さんの近くにきたカメは、1匹ずつ口の中にタラを与えてもらっていた。その他はフレーク状のえさを与えた。 |
| 深海生物 |  |
| マツカサウオ、エビ、カニ、鱈 など | |
| 餌：主にオキアミ | |
| 学んだこと | 水温 2 度に設定し管理されている |
| 気づいたこと・感想 | タラにタラの切り身をあげていたので驚いた。しかもよく食べていた。 |
| ジャングルコーナー |  |
| コガネオオトカゲ、グランディスヒルヤモリ ブルーカンディール、エボシカメレオン、 エリマキトカゲ、マレーハコガメ、 キオビヤドクガエル など | |
| 餌 | ブルーカンディール・・・市販のミニキャット エボシカメレオン、コガネオオトカゲ、グランディスヒルヤモリ、エリマキトカゲ・・・ コオロギ キオビヤドクガエル・・・ショウジョウバエ マレーハコガメ・・・市販のカメのえさ |
| 学んだこと | コオロギが動くことを嫌う個体には、頭を折ってから与える。食べ物の好みや性格によって餌の与え方を工夫している。観察と記録を取り、飼育員で共通理解することが大切。 |
| 気づいたこと・感想 | エリマキトカゲ・・・ピンセットでつまんでいた餌を落としてしまった。その餌が、エリマキトカゲの襟巻に当たった。するとものすごい勢いでこっちを見て襟巻を広げて威嚇してきた。でも襟巻を広げた姿はとてよかった。 エリマキトカゲは迷惑だったかもしれないが、襟巻を広げた姿を見られて嬉しい。 |

| | |
|--|--|
| <p>バックヤード</p> <p>ボールパイソン、イセエビ、オニオコゼ、魚、カエル、ヘビ、コウイカの幼体、クラゲ 他</p> |  |
| <p>餌</p> | <p>ボールパイソン・・・冷凍マウス イセエビ・・・オキアミ クラゲ・・・アルテミア オニオコゼ・・・タラ</p> |
| <p>学んだこと</p> | <p>バックヤードには控えの魚やカエル、蛇などがいた。次に展示されるかもしれない生き物や今展示されている生き物の予備もいる。ショーの魚も次の魚が練習をしていた。</p> |
| <p>気づいたこと・感想</p> | <p>バックヤードには控えの魚やカエル、蛇などがいた。見たことのない魚もいておもしろかった。 イセエビ・・・見た目はゴツゴツして怖そうなのに、食べるスピードが遅く小食だった。 オニオコゼ・・・めったに動かず石と間違えるほどなのに、エサを見つけると勢いよく向かって来て迫力があつた。</p> |

1日目午後

不破学芸員さんとの懇談

学芸員になるには ⇒ 水産学部など専門的な学部へ進学

- ・学芸員や潜水士資格が必要

学芸員の役割

- ・調査研究 目的 ⇒ 自然を守り残していくために調査して記録
- 保全活動 ⇒ 飼育環境ごと守る域内保全を目指す
- ・収集・保存（飼育→繁殖→展示）
- ・教育普及
- ・レクリエーション

僕が1年生の時から参加しているうおづ水辺の調査隊事業も普及教育活動の一つ。フィールドで実際に経験させてもらうことで、僕は生き物が大好きになり自



然にも興味を持つようになった。

学校水族館の話や課外事業での生き物調査はとてもうらやましかった。僕の学校には生き物がない。どの学校にも生き物とふれあったり飼育を経験したりできる環境があって、生き物や自然に関心を持ってくれる人が増えたらよいと思った。

仕事のやりがい大変さ

・やりがい

喜び・感動を与えられる ⇒ 感謝

大好きな生物の関われる ⇒ 保全する使命

今から心がけておくべき大切な3つのこと

・基礎学力を高める

特に国語や算数は大切。

・自分の経験を大切にす

自由な時間を何に使うか。例えば、ゲームをするのか、YouTube、マンガ、家の手伝い、生き物について調べるなどいろんな時間の使い方があるが、自分でよく考えて時間を大切に使う。

・いろんな人との出会いを大切にす

自分と同じ興味を持った人はもちろん、違う知識や経験を持った人との出会いもとても大切。様々なことにチャレンジして個性を伸ばす。

好きなものへの時間は惜しまないという不破さん。自宅でもたくさんの生き物を飼育しているそう。不破さんの話を聞いて、ぼくも自分の夢のために、勉強やフィールドワークなどに進んで取り組み自分の時間を大切にしていきたいと思った。

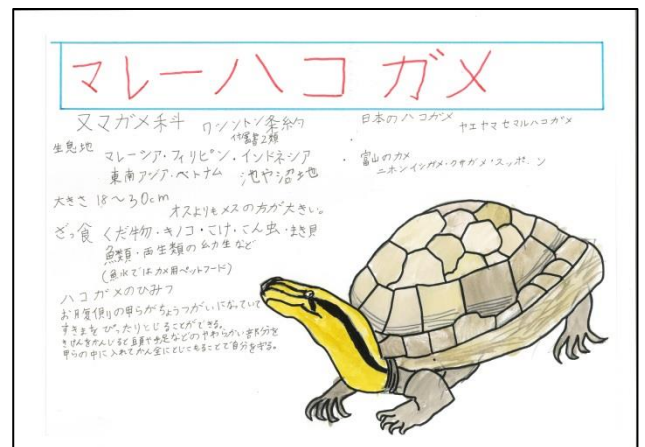
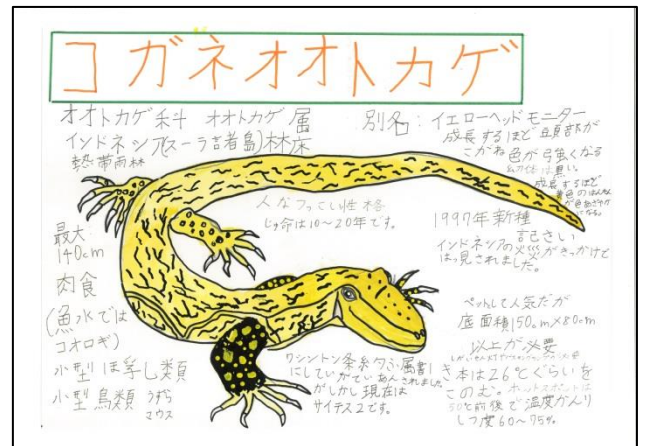
生き物ガイドの準備（資料調べ）



2日目の活動でジャングルコーナーのガイドをすることになった。紹介する生き物について調べ話す内容を考え、パネルを作る準備をした。資料を調べたり生き物を観察したり飼育員さんの作成したパネルを読んだりして自分はどんなガイドをするか考えた。

パネルの作成は宿題。3種類の生き物についてそれぞれ5分話すというのはとても長くてびっくりした。最初に出来たと思ったパネルでは1分にもならなかった。

大好きな生き物の絵は手を抜きたくないし、コガネオオトカゲは発見されてまだ年数がたっていないので資料が少なく、インターネットの情報はそれぞれ違って困った。



2日目午後

※2日目午前は1日目午前と同じく生き物の世話

ガイド体験



学芸員さんが付けているマイクをつけると自分でもびっくりするほど緊張した。不破さんが声をかけると、近くにいた5～6家族が集まってきてくれたので、自分で作ったパネルを見せながら話をした。

キオビヤドクガエルに名前を付けて、模様の違いをクイズで紹介、ハコガメの甲羅の特徴も説明した。

コガネオオトカゲのコーナーでは、飼育員の大塚さんの協力で捕食シーンを見てもらった。僕のおすすめのシーンだ。普段は見ることのできない捕食シーンに、子供たちは大喜びで、水槽の近くに行って真剣に見ていた。お客さんが喜んでくれて嬉しかった。

ガイドのための準備は、調べることが多くて大変だけど、生き物について詳しく学べるし、絵を描いてパネルを作れるので楽しかった。

おさかなショーのトレーニング

ぼくが担当したのは、控えの魚。次に水族館でショーをするウマヅラハギ、イシダイ。

ウマヅラハギ・・・輪くぐり

イシダイ・・・・文字のプレートを引っ張って並べた



輪をくぐったら餌をもらえることを学習した魚たちは、ショーの道具が水に入るとすぐにやってくれた。こんなにそばで見たのは初めてだし実際に出来るなんて嬉しかった。魚がとてもかわいらしく、魚についてもっと知りたいと思った。

餌の管理

生き物のえさになる魚を保管する冷凍庫を見せてもらった。マイナス25度。普段見ることのない水族館の防寒着を着て中に入ると、ホッケ、サバ、タラやオキアミなどがたくさん入っていた。餌の管理も飼育員の大切な仕事。たくさんの量に驚いた。



2日間の感想

水族館での活動を通して、魚、クラゲ、サンゴ礁など、今まで興味がなかった生き物たちが急にかわいらしく見えてきた。おさかなショーの魚が、僕の顔を見るかのように水面から上がってきた時はとても嬉しくて幸せな気持ちになった。今まで興味がなかった生き物や、自分が知らない生き物についても知りたいと思った。

生き物のことや飼育方法、エサのやり方など知らないことがたくさんあることがわかり、これからたくさん学びたい。いろんな人に生き物や自然の良さを伝える学芸員になれるように、頑張りたいと思った。



最後に、9月3日(土)魚津水族館フォーラムでモリアオガエルの観察と夢の卵学芸員体験で経験したことと作文を発表した。自分の思っていることや発見したことを話し、たくさんの拍手をもらい嬉しかった。

お世話して下さいました学芸員の不破さんや飼育員さん、富山県ひとつづくり財団の大橋さんありがとうございました。